

2010年6月

相変わらず不安定な天候が続いている香港ですが、みなさまお元気にお過ごしでしょうか。

先日は1964年以来、6月の夜としては一番低い気温が観測されたそうです。

確かに5月中に数日は、気温30度、湿度80%の熱帯雨林のような日もあったのですが、このところは気温が低だけでなく、湿度も低く、からっと爽やかな香港らしからぬお天気が続いています。

むしむしと過ごしにくいと、ついつい口から文句がこぼれてしまいますが、過ごしやすければ、過ごしやすいで、天変地異の前触れ？などと不安になったり、不思議なものです。

そんな夏らしからぬ香港ですが、我が家にはひと足早く、夏らしいお客様が。

夫の卒業した学校からサマーインターンシップのために来港した学生さんです。

インターンシップというと、日本ではまだまだあまり聞き慣れない言葉のように思いますが、学生さんや、またその業務分野で就業未経験の人を対象に、受け入れ企業先で実務を経験する制度のことをいいます。

日本国内でも日本人の学生を対象に、受け入れている企業はあるようですが、もし、将来、香港で働いてみたいという希望があるのならば、香港でインターンシップをしながら夏を過ごすというのも、とても有意義なことではないかなと思います。

実務経験といっても、インターンシップでは就労ビザが取得できるわけではないので、あくまでも、現在自分が自国の学校で学んでいることの実践学習という形になるので、無給での実務となりますが、観光で訪れたのではわからない、生活してみて始めてわかる香港という土地や香港に住む人の本当の顔が見れるという得がたい経験ができるような気がします。

また、香港のオフィスでは香港人だけでなく

イギリス、アメリカ、韓国、中国、台湾、インドと様々な国籍の人が同じように机を並べていることも多く、将来、香港でなくても国際都市と呼ばれるところで働きたいという希望を持った人にはとても良い実務経験が得られるように思います。
まだまだ香港の企業もこの夏のインターンシップを募集しているようですよ。

そして、もう学生ではないので、インターンシップには少し時期を逃してしまったけれどやはり一度香港という街で生活をし、働いてみたいという方。けれど、行ったことのない土地で、いきなり正社員の現地採用も不安だという方には、ワーキングホリデー制度はいかがでしょう。

以前にはオーストラリアやニュージーランドが有名で、人気もあったワーキングホリデーですが、2010年1月から香港にも導入がされました。

対象は18歳から30歳で12ヶ月の滞在が許可されます（延長不可）

あまり知られてないことかもしれませんが、香港の人は生まれかわったらどこの国の人になりたい？というアンケートで日本人というのがトップに来るほど、意外に日本びいきで日本の生活用品や流行品、また和食の人気が高く、日系のスーパー、日系の飲食店も多数あり、休暇を楽しみながら働くというワーキングホリデーの趣旨にそうアルバイトを見つけるのは、そんなに難しい場所ではないように思います。

将来、香港で、海外で働いてみたいという夢を現実に近づける第一歩をインターンシップや、ワーキングホリデーで踏み出してみてもいかがでしょう。

夏はもうすぐ。
充実した夏の訪れでありますように。

咲乃月音

注：弊社では正社員のお仕事を中心にご紹介を行っており、ワーキングホリデー、インターンシップについてはお取り扱いしておりませんので、ご了承ください

さい。